

令和5年10月20日(金) 三沢小学校 ちちぶエフエム訪問 「感謝の思いを伝えよう」

令和5年10月28日(土) 埼玉新聞掲載

町を留める町名も多く、ロータリークラブの皆さんのご尽力で新たな観光スポットが誕生した。観光客、市民にも昔の町名を知ってもらい、川越を宣伝していきたい」と祝辞を述べた。石井会長は「旧十力町には思い入れがあり、今回の石碑で、諸先輩方の思いが、よやくかかったと思」と語った。(高梨肇)

体験学習協力に感謝 ちちぶエフエム訪問

皆野、三沢小児童ら

販売体験学習に協力してくれたお礼に、皆野町立三沢小学校(吉田浩校長、児童数24人)の児童が、コミュニティFM放送会社「ちちぶエフエム(秩父市中町)に花束とメッセージボードを贈呈した。同校は7月に道の駅「みな」で、児童が地域住民らと協

力して育てたジャガイモとカブトムシを販売。ちちぶエフエムは、ラジオを通して販売の事前告知や販売日の生中継などを行い、集客に貢献した。販売後、売上げの使い道を児童たちが話し合い、「日ごろからお世話なっている方々にプレゼントを贈ろう」と意見がまとまった。今月中に、ちちぶエフエムや学校運営協議会、温水プール施設「ふれあいプール・ホット」関係者らに、花束と全児童の感謝の思いをつづったメッセージボードを手渡した。

児童を代表して、ちちぶエフエムを訪問したのは、5年の山口唯冬さん(11)と3年の陽向さん(9)兄弟。唯冬さんは販売日前にラジオ出演し、リスナーに来場を呼びかけた。唯冬さんは「ラジオは緊張したけど、しつかりと思いを伝えることができた」と笑

ちちぶエフエムの山中優子さん(左)に花束を手渡す三沢小学校の児童。17日午後、秩父市中町のちちぶエフエム



顔。陽向さんは「お客さんを呼び込むことの大変さを学んだ」と話していた。

ちちぶエフエム取締役の山中優子さんは「秩父の人と人をつなげる役割を果たせてよかった。これからも地域の人たちと交流を深める楽しさを知ってほしい」と児童に伝えた。(中野春夫)